事例No.	2769
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	平野　彰秀

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・歳入確保 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

農山村の暮らしからSDGsを学ぶ。水力発電と民衣の事業化を通じた過疎集落・石徹白の再生

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



農山村の暮らしからSDGsを学ぶ。水力発電と民衣の事業化を通じた過疎集落・石徹白の再生

平野（ひらの） 彰秀（あきひで）氏

DATA

事　例　名：水力発電と民衣の事業化を通じた過疎集落・石徹白の再生
所　在　地：岐阜県郡上市白鳥町石徹白第65号18番地
連　絡　先：E-mail info@chiikisaisei.org
ホームページ：https://itoshiro.org/

取組の概要

岐阜県郡上市・石徹白（いとしろ）は、昭和30年代は1,500人いた人口が、現在は250人弱と急激に減少した過疎集落である。平野氏は、地球環境の持続可能性のヒントが農山村のかつての暮らしにあると考え、2011年に移住。昭和初期にこの地が水力発電で電力自給していたことを知り、2016年、集落ほぼ全戸出資による小水力発電事業を立ち上げた。また、妻が地域のお年寄りに教わった、日本人が古来より着用していた端切れの出ない直線裁ちの服「たつけ」をリデザインし事業化。一連の取り組みにより、移住世帯は約50人となり、人口減少を食い止めている。

評価された点

- 小水力発電は日本の中山間地域において地形・環境に親和性が高く、採算の取れる数少ない発電方式で、地元に元々あった小水力発電に着目し、そこから産業（とうもろこし、農産加工等）の活性化や移住者の呼び込みに成功し、地域を活性化した好事例である。
- 過疎地域での「食」と「エネルギー」の自給という日本の抱える諸課題の根幹を先んじて捉え、大きな成果を上げており、特筆すべき取り組みである。また、ランニングコストとして補助金に頼らずに運営できる事業モデルである点を評価。
- 小水力発電をもとに、地域に経済循環を生みだしており、移住世帯の増加に寄与。子供が増え小学校の存続にも寄与している点を評価。
- 伝統的な民衣の作り方の伝承保存だけではなく、現代的に展開、販売も実施し、農山村での企業を実現している点も高く評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2007年～　小水力発電事業開始。

2009年・2011年

・小水力発電の調査・機器開発を実施。

らせん水車・上掛け水車の設置
・住宅1～2世帯分の電気をまかなうことのできる規模の小水力発電を、集落内の農業用水に設置。



・2011年9月
平野夫妻移住。

2012年～

石徹白洋品店創業
・地域のお年寄りから、直線裁ちの服（たつけ）の作り方を教わる。



・集落住民が事業主体となった小水力発電の実現に向けた検討。

2014年～

石徹白農業用水農業協同組合設立
・集落ほぼ全戸出資により、小水力発電事業を中心とした事業を実施する農協を設立。





・発電所建設。

2016年～

石徹白番場清流発電所完成／運転開始
・最大出力125kW
・売電売上：年間約2,400万円
・売電売上を、耕作放棄地の再生・集落営農の立ち上げなど、地域の課題解決に活用。



2017年～

石徹白洋品店法人化
・本店・オンラインショップ・全国各地での展示販売会などでたつけを販売。

今後の展望

・売電売上の地域課題解決への活用。
・小水力発電石徹白モデルの他地域への展開を増やす。
・石徹白洋品店都心部へのリアル店舗出店。
・サステナブルな服づくり体験を体験できる場づくり。

受賞者のコメント

このたびは、身に余る賞をいただき、深く感謝申し上げます。賞をいただいてふと振り返ると、「自分の活動はちゃんと地域のためになっているのだろうか？」「持続可能な地球環境の未来のために役立っているのだろうか？」と、改めて自問自答します。先の見えない世の中ですが、これからも、自分自身に問いかけながら、少しでもよりよい未来を次世代に引き継げるよう、できる限りのチャレンジを続けていきたいと思います。